

ECBの追加金融緩和を受け、 欧州債券の魅力が高まる

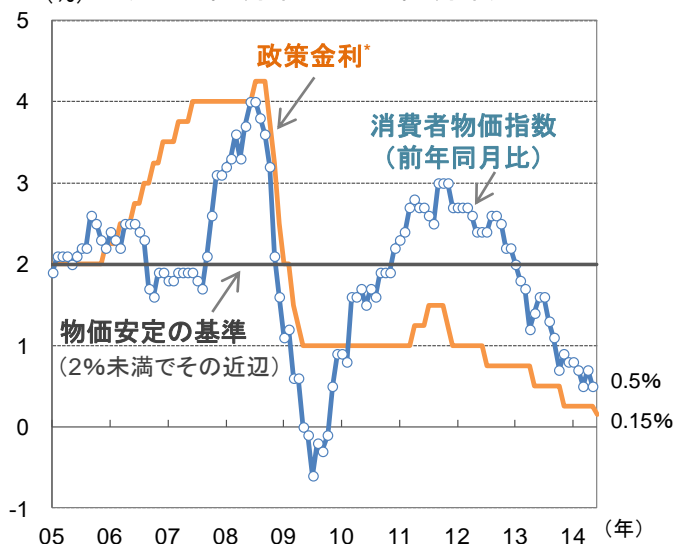
ECB(欧州中央銀行)は6月の定例理事会で、追加の金融緩和政策を発表しました。指標となる政策金利を引き下げた(0.25%→0.15%)ことに加え、民間銀行がECBに預け入れる余剰資金の金利をマイナスにする政策の導入を決定したことなどから、金融市場では、欧州の国債が買われ、利回りは低下基調を強めました。

こうした動きは前回(2013年11月)の政策金利の引き下げ時にもみられました。10月のユーロ圏の消費者物価指数は前年同月比+0.7%と、ECBの物価安定の基準である「+2%未満でその近辺」を大きく下回る状況にあったことから、ECBは政策金利の引き下げに踏み切り、欧州の国債利回りが低下傾向となりました。この時期、欧州債務問題への懸念が大きく後退していたこともあり、巨額な財政赤字などを抱え、それまで極度に利回りが高くなっていた格付の低い国の国債ほど利回りの低下幅が大きくなりました。また、その後の物価上昇率の回復の鈍さなどから、追加の金融緩和観測が高まったことなども、利回り低下に拍車をかけたものとみられます。

今回の追加金融緩和の効果について、ドラギ総裁は「一連の措置の実体経済への波及には、おそらく3~4四半期程度かかる」としています。しかしながら、インフレ率の低下に歯止めがかからないようであれば、ECBはさらなる緩和策を検討する可能性があることに加え、市場で低インフレ観測が強まっていることなどを踏まえると、欧州の国債利回りは今後も低下しやすい状況にあるとみられます。そうした中、足元では投資家のリスク許容度が高まっており、相対的に利回りの高い資産を求める動きが広がっています。今後、欧州では、低格付で利回りが高い国債のほか、より利回りの高い社債なども買われる傾向となると考えられます。

ECBの政策金利と消費者物価の推移

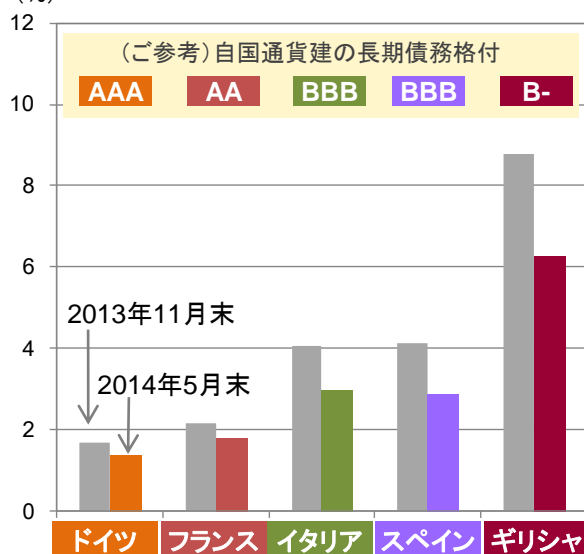
(%) (2005年1月末~2014年5月末)



*政策金利(主要リファイナンス・オペ最低入札金利)は2014年6月5日決定分まで

ユーロ圏主要国の10年国債利回りの比較

(%) (2013年11月末と2014年5月末の比較)



*格付は2014年5月末時点(S&P)

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。